

日本看護研究学会 第51回学術集会
委員会企画
2025年8月31日（日） 10:40-11:40

和文誌編集委員会

「事例検討」を「事例研究」にする:

「ケアの意味をみつめる事例研究」を使って
(Case Study to Focus on the Meaning of Care : CMC)

山本則子

東京大学大学院医学系研究科
高齢者在宅長期ケア看護学分野

※報告すべきCOIはございません。



UTokyo
Nursing



GNRC
Global Nursing Research Center
The University of Tokyo

事例研究とは

事例研究：

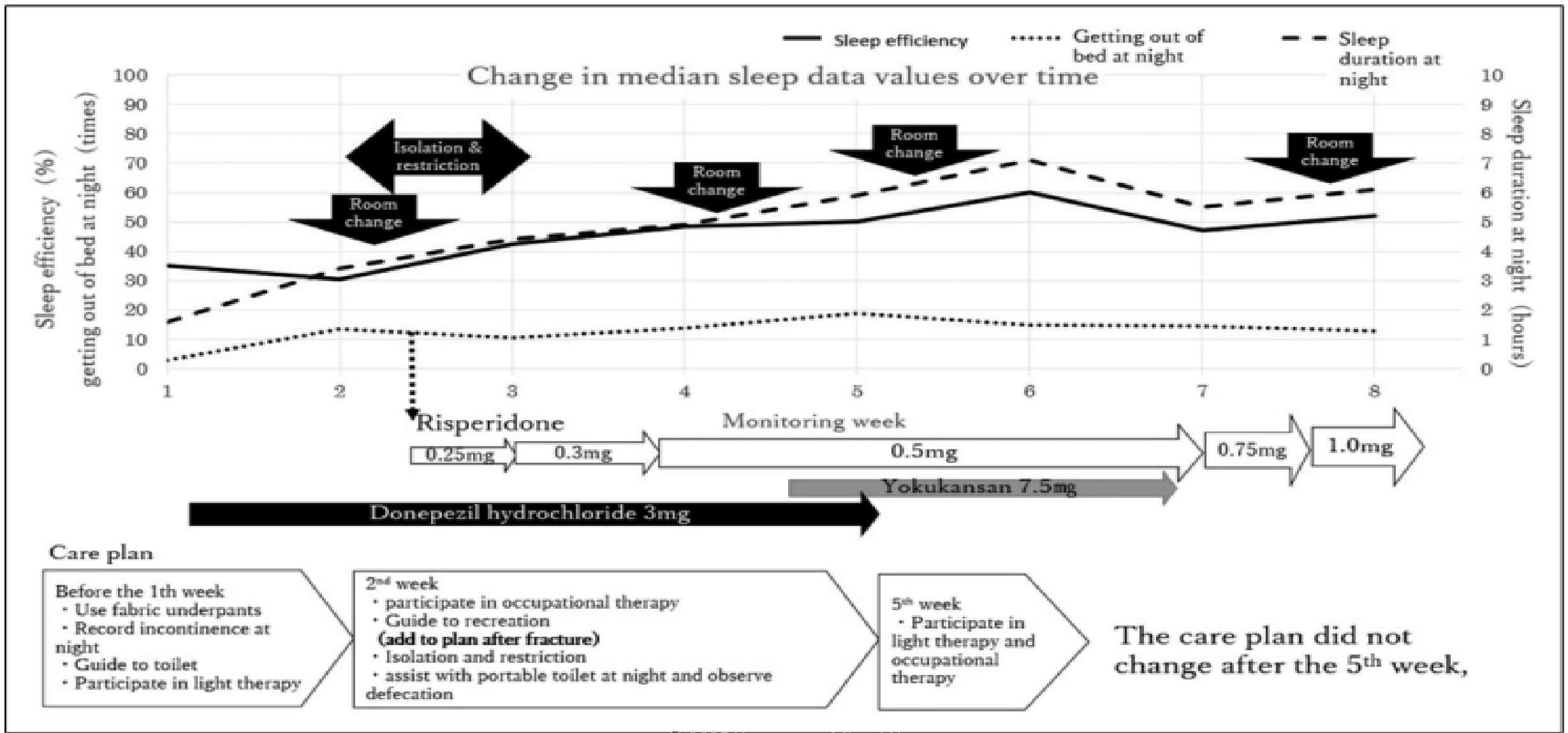
事例検討からの学びを「**共有可能な知**」にする

事例検討会の参加者だけでなく、学会発表・論文発表のオーディエンスにも。
地球の裏側に住んでいる人にも。300年後の看護師にも。

事例研究の多様性

1. Yin : ケーススタディは、特に**現象と文脈の境界が明確でない**場合に、現在の現象（事例）を**現実社会の文脈において**研究するもの（Yin, 2014）
 - 一事例・複数事例を問わない
 - 定量的・定性的を問わない
2. Merriam : あるひとつの事例や現象や社会的単位に関する、集約的、**全体論的**記述と分析... 特定の事柄に関する、記述的、**発見的**な分析（Merriam, 2004）
3. Stake : **一つの事例**の複雑性を捉える (Stake、1995 p.xi)
4. 山本力・河合隼雄 : **省察的**事例研究
 1. 臨床心理学の領域
 2. 実践経過に関する振り返りと学び（省察）
5. 斎藤清二・Greenhalgh : **物語**研究法
 1. **物語を科学的な研究伝統の一つ**として位置付ける
 2. 臨床事例研究は**複数のパラダイムを横断**する性質を持っている（斎藤、2013）

定量化も含めた事例研究



「ケアの意味を見つめる事例研究（CMC）」 を事例検討・事例研究にお勧めする理由

<CMCの特徴>

1) ケアの意味・意義meaning of careに関する「メタファー」

- ・実践の意味のまとまりととらえる

2) メタファーに着想された「大見出し」「小見出し」

- ・ケアの意図・コツを端的に表現し直観的な理解を可能に

3) 上記1)2)を複数のケア実践者の「対話」によって生み出す

- ・問われ語りによって生じる「意識化」と「理解の拡張」

4) 見出しと時期によって統制された「表」によるケアの構造化

- ・全体像のもとでとらえるからこそ浮かび上がる個々の実践の意味

5) 時間の流れに沿って「ケアの展開を実践者自身が詳述」する

- ・読者に追体験してもらい、そこから自分の経験を生きなおすことを可能に
- ・表だけでは表せない全体性（見出し同士の絡み合い等）を伝えるために



- ・「見出し」＋「表」＋「本文」で読者を触発
（読者が自らの経験に照らして、「揺さぶられる」）



世界観・患者観・ケア観の瞬時の変容と「これまでとはひとあじ違う」看護実践の進化

本人が元気になると
思っていた時期
(11月中旬から2週間)

予後が家族に伝えられた時期
(11月末から3日間)

最期の看取りに向かうまでの時期
(12月初めから1週間)

<患者と家族の様子>

- ・帯状疱疹、肺炎に罹患
- ・努力様呼吸、経口摂取困難
- ・連日の訪問看護と隔日の点滴開始
- 「話したいんだけど喋れない」
- 「お腹が空くのにな下りていかないの」

- ・呼吸不全に続く心不全状態
- ・頻脈、徐脈で緊急コールをする
- ・褥瘡の形成
- ・家族の不安感が募る
- 「もう最期なのか」

- ・主治医が家族へ予後の説明をした
- 「このままの飲水・経口摂取の状況なら、(予後は)一週間」

- ・家族は、在宅看取りの希望を医師・看護師に伝えた
- 「最期は家で決めました」

- ・頭部挙上した状態で昼夜臥床
- ・うとうとするときと苦しい時が交互に現れる
- ・酸素は3〜7リットル/分へ流量が暫時変化
- 「苦しい？って聞かないで」
- 〈家族に対して〉
- 「みんな疲れているのにごめんね」
- 〈看護師に対して〉
- 「苦しい」「助けて」「死んじゃう」

- <亡くなる前日>
- ・反応なく下顎呼吸、末梢循環不全改善せず

- ・家族に見守られて逝去される

1) 未来を語る
言葉に引っかかる

- ・雑談の中で、本人の口から未来を見据えた発言が聞かれ、まだ生きたいと思っていることに気づく
- 「元気になってきました、先生が元気になるって言っていました」
- 「正月のごまめを作らないと、一袋買ってきておくれよ」

- ・本人の言葉が考慮されていないことに気付く
- (介護日記にも記録はない)

2) 在宅看取りの
流れの中で、
あえて立ち止まる

(1) 本人が今
どうしたいのかを
確かめる

- ・本人はどう思っているんだろう？と疑問に思う
- ・本人の耳元でどうしたいか聞いた
- 「入院して検査してもらいたい」

(2) 本人が今
どうしたいのかを
代弁する

- ・主治医に電話で本人の意向を伝える
- ・本人は諦めきれないかもしれない、と考え、主治医・家族と直接話す機会を作った

3) 家族の時間を
存分に味わって
もらう

(1) 家族のケアを
引き立てる

- ・食べられるもの、飲めるものを一緒に考えた
- ・本人が大好きなコーラの飲ませ方・水片の食べさせ方を伝える
- ・吸引・バットの交換・体位交換は家族が出来るように方法を伝える
- ・点滴や痛みを伴う、体位交換、褥瘡処置、陰部保清、などの処置や身体ケアは看護師が行う

- ・家族に対して「その時は近いかもしれないが一緒に居られる時間を大事にしましょう」と声掛けをする

- ・ひ孫を含む家族が交代でタッチングや声かけ、経口摂取の介助を行っていることを支援する

- ・点滴や痛みを伴う、体位交換、褥瘡処置、陰部保清、などの処置や身体ケアは看護師が行う

- ・「ゆっくり息をしてみてください」「大丈夫ですよ」と声をかけ、生きて、息をしていることを本人、家族と共有する

- ・足浴、マッサージなど、家族ができるケアを一緒に行う

- ・家族が工夫した、吸引を使いながらアイスキャンディーを食べさせる、ペットボトルにお湯を入れて手足を温めるなどのケアの工夫を支持する

- ・体位交換、褥瘡処置、陰部保清、などの身体ケアは看護師が行う

(2) いつも通りで
いる

- ・看護師はいつも同じスタンスでいる
- ・看護師の声のトーンはいつもと同じにする
- ・バイタル測定や清拭、更衣の手順もスピードもいつもと同じ
- ・窓を開けて風を入れる

ポスター作成例

東京大学「意味を見つめる事例研究」
セミナー資料
(模擬事例からのポスター作成例)

1 G訪問看護ステーション、2 H大学、3 I大学

1 G訪問看護ステーション、2 H大学、3 I大学

発表要旨

- 終末期に在宅看取りが可能となった事例を分析したところ、「糸口を探して患者・家族を知る」努力をしながら「後悔が残らないように患者と家族を」
「あづける時間を多く持つように配慮」
「家族をケアに巻き込む」むことで家族の本音
「見守り」を促していた。また、「療養先の変化の可能性」
「く」ことで「タイミングを逃さず」に
「安定した退院後の生活」に向けて「段」
「者・家族の希望を実現していた。」

対象と方法

事例の概要

看護実践の対象は、誤嚥性肺炎で入院となった70代女性(A氏)とその家族(夫と娘)。誤嚥性肺炎で施設からの入退院を繰り返していたが、腎不全・肝不全が進み終末期となった。当初在宅看取りの希望はなかったが、本人・家族の希望が変化し、最期の2週間を在宅で過ごされ看取りとなった。この間、担当看護師Bを中心に看護を行った。本研究は、最後の入院から在宅看取りまでを分析した。

データ収集と分析方法

山本らの「ケアの意味を見つめる事例研究」の方法を用いた（山本2011）が支援の経過を振り返って記述したテキストをデータとし、A氏・家族が支援につなげ、希望に沿った看取りの実現に寄与した看護実践の可視化と、看護師Bと同僚看護師1名、研究者3名を含む5名で検討した。語り合いの手法によって、看護実践のエッセンスを表す「大見出し」「小見出し」と時期からなる表に整理した。表に具体的な実践も書き入れ、その後に語り合い、新たにえてきた看護実践の意味を考え「大見出し」の場での実践を適切に表現できているメンバー全員が納得できるまで討議を重ねた。（倫理：H大学の倫理委員会にて承認）

結果

時期区分 大見出し/小見出し	患者・家族を理解し彼らが受らざる関係を作った時期	娘と共にケアをしつつ娘の気持ちの変化に注目した時期	速やかに退院を調整し不安なく看取りにつなげた時期
もう一歩工夫して患者・家族を知る	・失禁の跡を使わずに訪問に入り居るの生活について留意し、「カーテンを開けておいてお風呂の跡を綺麗に」 ・病院の中から室や個室に対する考えを確認することで、患者が受ける時間を持つて居る様について考えるようにした。 ・矢が病室で寝ている事が多く、患者は日中を同様の外を見ている時間が多くなり様子から病室の奥に居るようになった。		・患者に退院の不安について、内服調整に対して確認した。 ・患者の介護難易度を把握できたりと、解れるなら解りたいし、家族の生活を支えていとは思っていたけれど、解れることはうれしき事という事柄の整理を確認した。 ・病院でのケアについて看護師で話をし、娘に説明し、理解と在宅生活の不安を確認した。
後悔が無いよう患者と家族をつなぐ	・病院の中から室や個室に対する考えを確認することで、患者が受ける時間を持つて居る様について考えるようにした。 ・以降療養で、患者が「カーテンを開けて通こう」とこの希望を共有し看護計画にも盛り込み共通の意思とした。	・家族がいるときの食事介助では、ベータアップを90度開いている状態や椅子をいれて移動が難いし汚い行動など、行っていることの整理を説明しながら介助をした。 ・看護ケア等を一緒にこなすから頑張れ、ケアの方法や大切さを共有しながら頑張った。 ・食べ残や飲み物、マウスウォッシュなどの様々な娘からの要望は可能な限り受け入れるようにした。	
決め時のタイミングを逃さない	・失禁の跡を使わずに訪問に入り居るの生活について 導いた。 ・退院の退院時に退院したお話をきかせてくださいと伝え、次の訪の時間を待つように言葉を付け加えた。 ・矢や娘に患者が退院に来る事を喜んでいることを伝え、次の退院に喜ぶことができたと声をかけた。	・娘と一緒に介護をするように声をかけると患者が疲る嫌いな事を言っていた。 ・自宅に患者を つれて帰ることが必要になる事を考えた。 ・娘に在宅でケアを全て受け 込む必要が有るとお話しをした。	
患者・家族の気持ちに目配りし、相談し、		・娘の「退院に不安なからお母さんの介助ができればいい、何の手をいしたでできたのかも、返っていたのかも」を聞き、介助を断断しているのではなく何をしていいかわからないのかも」と思った。 ・娘と一緒に介護をするように声をかけると患者が疲る嫌いな事を言っていることに分かった。 ・患者を運ぶ娘に日中の勤務の状況も伝えると娘は少し言葉をきかへたことと分かった。 ・娘に「退院した後の生活も悪くない」「介護のこと、お母さん返るとも嫌そうに思っていたよ」「退院し入居施設へ入りますよ」と声をかけた。退院は退院の介護しながら看護婦さんによつてもらうと断固とし、私も何ができたら」と言葉を返して、きた。	・娘が「室に帰るにあたり必要なことを教えてくれたらできる気がするよ。」「一緒に帰ろう、私もできそう」という言葉を 受け、自宅に帰るにあたり必要なことや手配される経過を伝えて 娘と次の気持ちをも今一度確認した。 ・矢が「娘が帰りたい」といふから娘と一緒にやる」という変化を確認した。 ・自宅に帰るにあたり必要なことや手配される経過を伝えて娘と次の気持ちをも今一度確認した。
安心した退院後の生活を守っていく	在宅介護に向けて速やかに行動する 「できそう」を保てるよう在宅介護の支援に関わる		・退院の意思を受け、退院許可、経路調整をキーワードに迅速に退院意思と一緒に自宅までの訪問看護スケジュールを確認した。 ・訪問看護開始と必要な準備について確認し始めた。 ・退院3日後、自宅へ訪問看護スケジュールに連絡をし現状を確認し、退院訪問看護開始の準備のもと在宅での療養をしていて、家族の生活と負担を減らす必要を感じて退院が必要と思った。 ・退院後2週間後、退院後訪問看護開始の負担を考慮して退院のサービス体制を確認した。 ・退院の訪問看護スケジュールに連絡し、退院の準備を完了した。

考察

この事例で、患者・家族の希望に沿って在宅看取りを可能にした看護実践の要点は、以下のように考えられる。

- 既に療養場所が決まっていますが、その変更の可能性を看護師が念頭において家族をケアに巻き込み、同時に、一人ですべて抱え込む必要はないと繰り返し伝えることで、家族がケアに安心して参加し自信を持てたこと
 - それに先んじて、看護師が患者・家族を深く理解できるよう工夫をする傍ら、家族の間をつなぐように配慮して関わることによって、家族が本当は自分はどうしたいかを考えられる機会と場が作られたこと
- この2つにより、家族の潜在していた希望が自覚され、当初はなかった在宅看取りの決意に至ったものと推察される
- 8

CMCによる事例研究は「研究」か

Yes! ただし、実証主義に基づく知を創る研究ではないです。

- 実証主義に基づく知（法則定立的な知）（望月、2025）
 - 法則性（複数の現象に共通する）
 - 実証性（観察・再現・証明できる）
 - 一般化可能性（知見をそのまま、AさんにもBさんにも新しい実践として用いる）
- 解釈主義に基づく知（個性記述的な知）
 - もの・現象がどのような見え方（認識のされ方）をするかは、私たち（個人）の認識枠組みによって左右される
 - 現象学・解釈学
 - 構築主義
 - 触発による普遍性（知見によって読者（実践者）が触発され、ケア観・看護観・患者観に変化が生じ、Aさん、Bさんにそれぞれ新しい実践を提供するようになる）
- 解釈主義に基づく知が、看護実践には欠かせない理由は

看護って…

- どんなタスクをこなしているか…だけ見せていても伝承できない
- どんな意図で「それ」を行い、どんな意味をもたらしているかとセットになって「ケア」は成立する

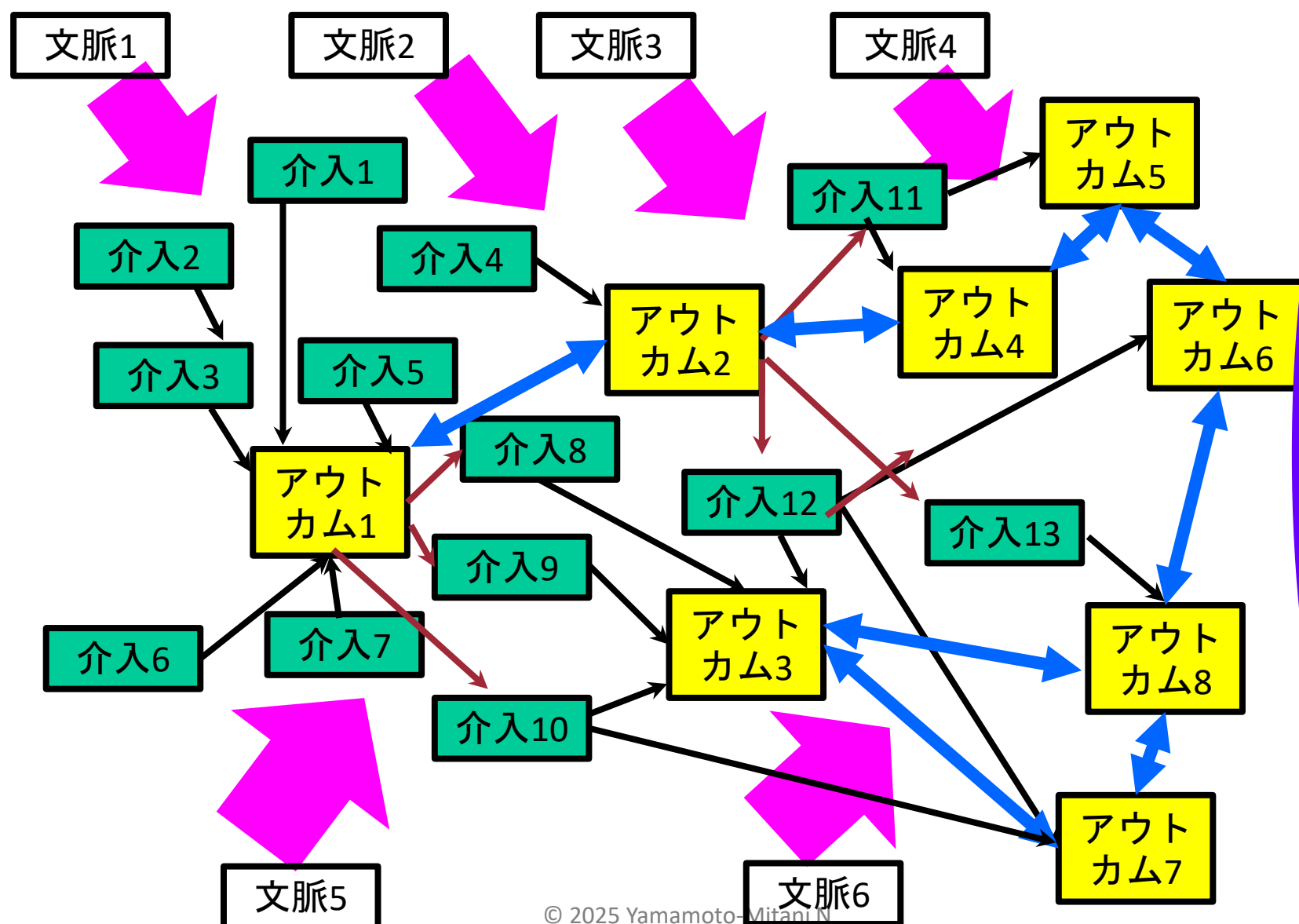
意識化

言語化

腹落ち的
理解

ヒント
応用

看護は一つの目的のために多様な支援を積み重ねる
ライブパフォーマンス である



わしは幸せだった

一事例の省察が「未来の看護」に役立つ（＝研究する意義がある） しくみ：



- *読者との間主観的な共通理解が生まれ、そこから読者の知覚の更新・拡張が起きる
- *事例研究はアナロジー（類推）を引き起こしやすい（渡邊）
- *ナラティブによる記憶は、聞き手を語り手と同じ気持ちにさせ、感情的な反応を生み出し、認識されより記憶に留まる(Benner)

「大見出し」「小見出し」と詳細な体験の記述で読者が経験を追体験し、もって読者を触発し、次なる類推を呼び起こし、知覚を更新・拡張して、新たな視点で次の患者に出会う

実践現場での
「ケアの意味を見つめる事例研究（CMC）」
の活用：
事例検討・事例研究に

CMCを「退院カンファ」に使っている例

- ・ ケアミックス型病院：看護職・介護職・リハ等多職種が参加
- ・ 月1回、1時間
- ・ ワークシートを用いた事例報告
- ・ グループワーク
 - ・ この実践の一番の「すごい！」は、どこにあるか？
 - ・ この実践から得られる新しい視点・活用できることは何か？
 - ・ この実践は、患者さん・家族にどんな意味があったか？
 - ・ この実践は、看護師にとって、どんな意味があったか？
- ・ 学会発表に活用

≡ Staff Centered Case Conference ≡
グループワークシート

1. この実践の一番の「すごい！」は、どのようなところにあるでしょう？

2. この実践から、新しい視点・活用できると思ったことはありますか？

3. この事例のケア実践は「患者さんご家族にとってどんな意味があったと思いますか？」
また、「あなたにとってどんな意味があったと思いますか？」

4. その他、気づいたこと・疑問点

ITCC 事務局
イミテーション・ドクター
Q ちゃん

CMCをラダー研修に使っている例

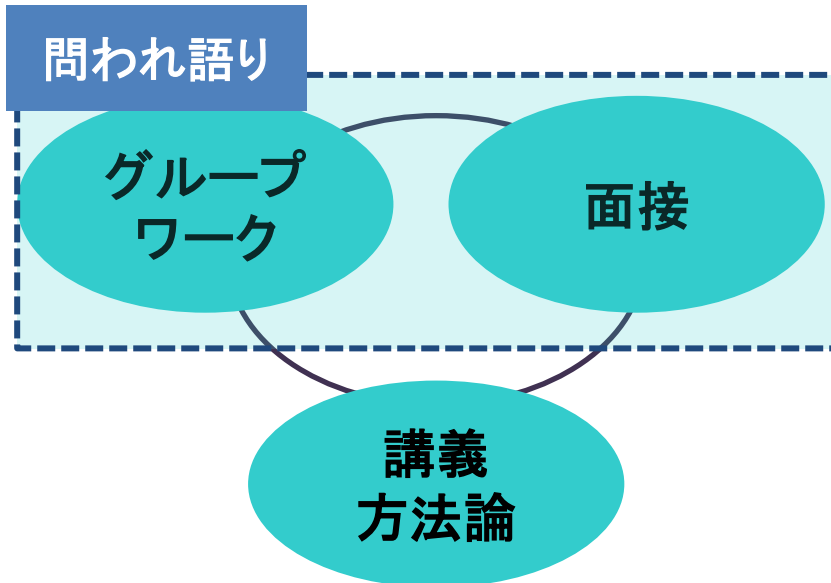
さいたま赤十字病院 看護の意味を見つめる研修

研修目的：

自己の看護を振り返り、自らの看護実践を可視化する
「良い実践」を同僚や後輩に伝え、組織における看護の質の向上を図る

研修期間：約9か月⇒研修5回（1回/月）+発表会

研修の構成：



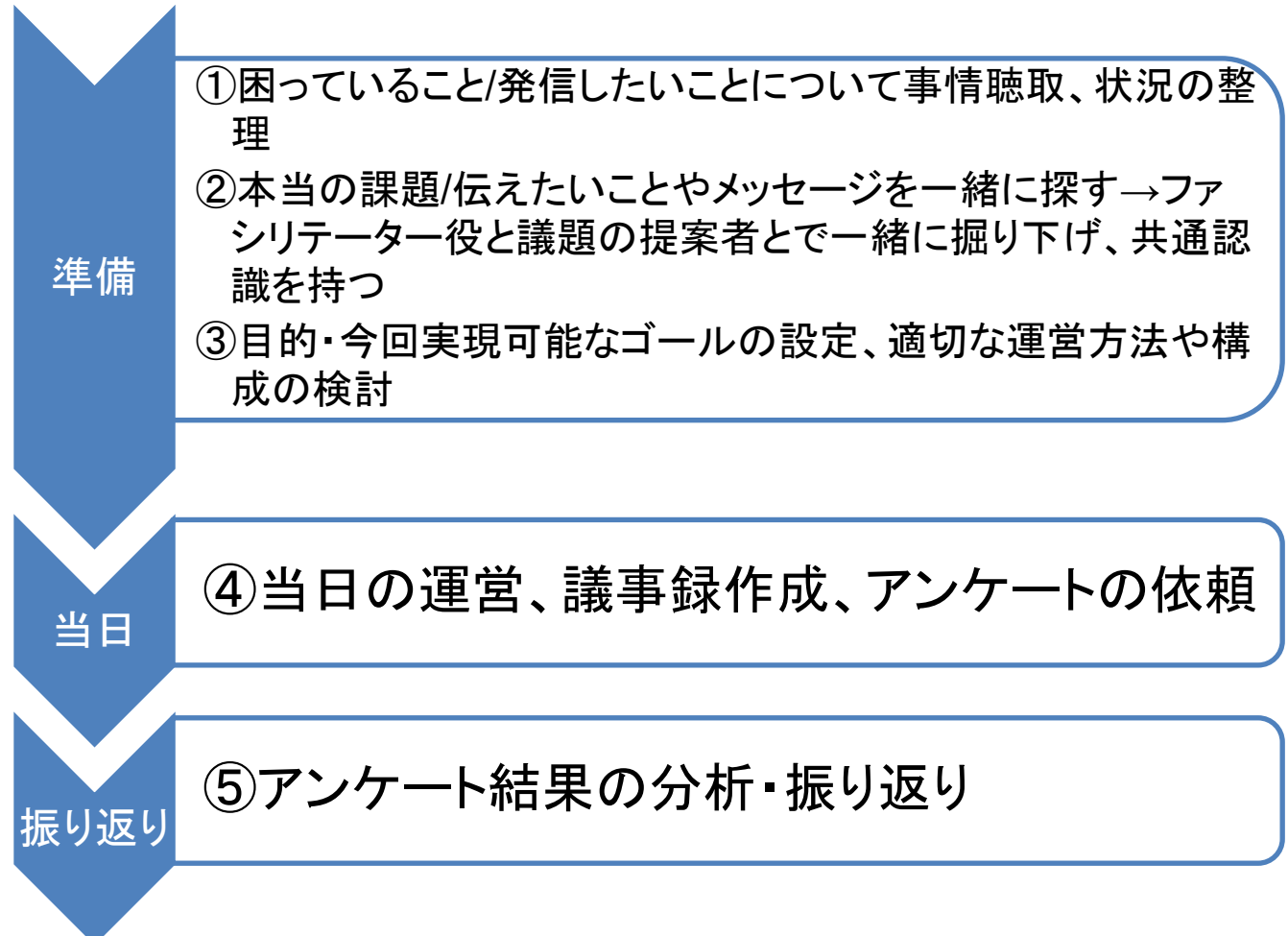
ラダー研修で事例研究を行う強み

- ★事例研究を通して自分の看護実践を振り返ることができる
- ★「見える化」
壁にぶち当たったときこそ大事
- ★仲間と一緒に進められる



CMCでの事例研究の経験から、対話をカンファレンスに使用している例

- ・ 訪問看護ステーション
- ・ 事例研究発表の定例化
- ・ カンファレンスは毎週1回 40分
- ・ CMCの対話スタイルを取り入れる



CMCがなぜ事例検討に使えるか（１）

- ・ 日常業務のなかで**意識化していない**実践の意味・意義の意識化・言語化・共有化
- ・ 事例検討会による効果（中野、2025）
 - ・ スタッフがポジティブな意見をすらすらと言える：実践の良い点を見出す力が身に着く
 - ・ 事例担当者・看護師の価値観や考えが伝わる
 - ・ 「自分の大切な人に届けたい看護」の実践が広がる
 - ・ 看護管理職の成長の機会
 - ・ 院内の課題を解決し、ケアの質向上を目指す場としての事例検討会へ

CMCがなぜ事例検討に使えるか（２）

- ・ リフレクションが深まる（実践の意味を多角的に捉える、無意識に関わっていた実践に大きな意味があったことを見出す）
- ・ 意識化・言語化のプロセスにより、語り合い、対話するチカラがつく。チーム力がつく活発なコミュニケーションが可能に
- ・ メタファー化のプロセスにより、既存の知識にとらわれず、実践の意味や意図を理解しやすく伝えられるような言葉を探すことはワクワク
- ・ 看護師としての成長に。自らの実践に自信を持ち、事業所としての実践に自信を持ち、やりがいを感じながら新たな看護実践への原動力を呼び起こす

（岡田、2025）

CMCのプロセス

ポイント1：一事例を丁寧に省察する

対人の実践・・・個別性

ポイント2：ナラティブを重んじる

ナラティブでないと表現できない実践

ポイント3：語り合い（対話）でエッセンスを発見

語り合いが浮かび上がらせる実践の意味

ポイント4：メタファー（比喩）を活用する

状況の認知、判断、意図を未分化なままシンボリックに伝える

事例研究（CMC）：事例の省察から「未来のよい看護へ」



「明日の患者さんにより良いケアをしたい」

「自分だけではなくて、ほかの人にも学びになってほしい」

「引き算の看護学(出来なかったことの蓄積)」よりも、

「足し算の看護学(出来たことの蓄積)」をしていきたい

事例研究を進めていくためのステップとしかけ

意識化/言語化

しかけ

「ワークシート」

「問われ語り」

メタファー化

しかけ

「キャッチコピー」

「大・小見出し」

「創発的語り合い」

「表づくり」

再ナラティブ化

しかけ

「一人称の記述」

「気持ちも伝える」

「追体験」

- ・ 学会発表
- ・ 論文発表

実践知（＝「意味」「キモ」「コツ」）を言葉にする
看護の可視化・共有可能性の獲得

ワークシートを用いた「問われ語り」

意識化/言語化

対話によって
・あたりまえ
・なんとなく
があぶり出される

事例研究ワークシート ver.7.0 (06/01/2017)

事例 (イニシャル) さん () 歳 (男性・女性)

事例の概要： (全体像の俯瞰)

事例の経過と看護実践

	前期	転機1	中期	転機2	後期
1. 時期ごとに思いつくままに以下についてまとめる ・患者・利用者、家族の言葉と様子 ・看護師が考えたこと ・実践内容 ・患者・利用者・家族の反応		何がきっかけになったか? どのような変化があったか?		何がきっかけになったか? どのような変化があったか?	
		患者・利用者・家族の反応・変化?		患者・利用者・家族の反応・変化?	

おおまかな時期ごとに以下の点を書き出す

- ・利用者・家族の状況
- ・看護師が考えたこと
- ・実践内容 (思いつくまま書き出す)
- ・利用者家族の反応・変化

看護の潮目の区切りを読み取って時期区分する

「事例研究ワークシート」のファイルは、
東京大学 高齢者在宅長期ケア看護学分野ホームページより
ダウンロードできます。
<https://longtermcare.m.u-tokyo.ac.jp/about-us/casestudy/>

語り合い・問われ語りとは

24

- ・ ワークシートを見ながら、事例についてグループで話す・説明する。

- 「どうしてこの事例を研究したいと思ったのか」
- 「この事例では、どのような良いこと（望ましくないこと）が患者・家族に起こったのか」
- 「そのようなことを起こした看護の実践は、どのようなものだったか」
- その他の質問
 - 「どうしてそうしたの？」
 - 「その実践の意図は何？」
 - 「具体的には何をどうやった？」
 - 「どうしたらそんなにうまくいくの？」

- ・ 初めての人にもわかるように詳細に、熱心に話す。
- ・ 説明は看護実践についてなので、看護師の受け止め、感情、意図も話す。
- ・ 関心を持って聞く。問いを立てる

「自分の経験に言葉を与える；
語り合い・問われ語りのなかで、意識化・言語化を促進

事例研究を進めていくためのステップとしかけ

- ・ 学会発表
- ・ 論文発表

意識化/言語化

しかけ

「ワークシート」

「問われ語り」

メタファー化

しかけ

「キャッチコピー」

「大・小見出し」

「創発的語り合い」

「表づくり」

再ナラティブ化

しかけ

「一人称の記述」

「気持ちも伝える」

「追体験」

実践知（＝「意味」「キモ」「コツ」）を言葉にする
看護の可視化・共有可能性の獲得

語り合いから「キャッチコピー」へ

①受け取る・感じる：

「語り合い」の中で、ケア実践の魅力・こだわりどころを味わう

②実践の意味の読み取り：

これが大事だったかも・・・など気になる実践についてどのような意図だったかを検討してみる。

③キャッチコピーをつける：

実践の意味づけのまとまりごとに実践を整理し、実践を端的に示す「キャッチコピー」をつける。

メタ ファー化

キャッチコピーを作る（メタファー化）

- 「語り合い」の中で、
「それって、『●●●●●●』ってことだよねえ」
「ここでの看護の『キモ』はこれでは？」
と感じられることを言葉に。
- 看護行為の「意味」「キモ（エッセンス・『売り』）」「コツ」を端的に示すこと
ば＝「キャッチコピー」
- これまで使ってきたような（教科書に載っているような）言葉を使わないように。
現場から取り出される新しい言葉が見つかる
- メタファー化のとりかかりとして、自由に、発想豊かに言葉をつけてみる
- 頭と心を柔らかくして、看護（の素敵さ）をメタファー化できるようになるための
エクササイズとして、ちょっと飛躍して、キャッチコピーを意識して作ってみよう！

良いメタファーを創る

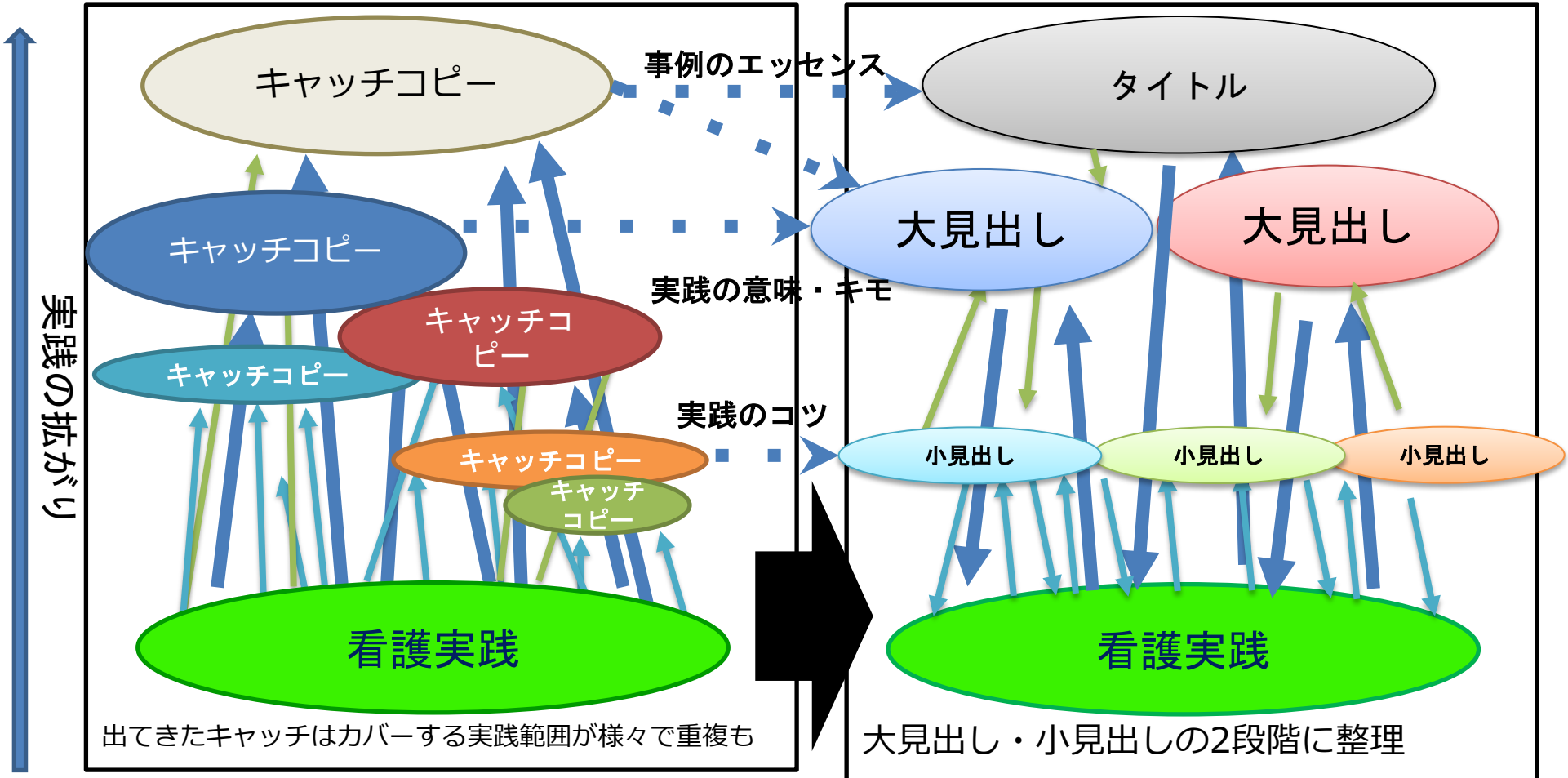
- キャッチコピー作りで、**自由に発想**する
 - 実践の本質的な性質を**イメージ**でつかまえる
- **対話**（3人以上が良いように見える）の中で、イメージを膨らませ、言葉に落とし込んで捕まえる。
- 機械的に作業だけしてもかならずしも生まれてくれない。
- いろいろな人の多様な意見が入るほうが発想が豊かに(polyphony)。
- 初期に思いついた言葉に引きずられず、イメージで考える
- 性質・特徴を言葉にしてみる
- 看護用語・使用禁忌用語を設ける
- 「整理箱」作りをやめ、実践そのものに迫った名前をつける。
- 何度も何度も作り直して、どの程度他者に「響く」か試す。

自由な発想は 自由なグループから生まれる

グループワークのルール

- お互い対等な関係でいましょう
（「～さん」づけで呼びましょう！）
- 相手の話をよく聴きましょう
- 一人が長く話し過ぎないようにしましょう
- 意見の違いを楽しみましょう

キャッチコピーを洗練したり却下・追加したりして大見出し・小見出しに洗練させる

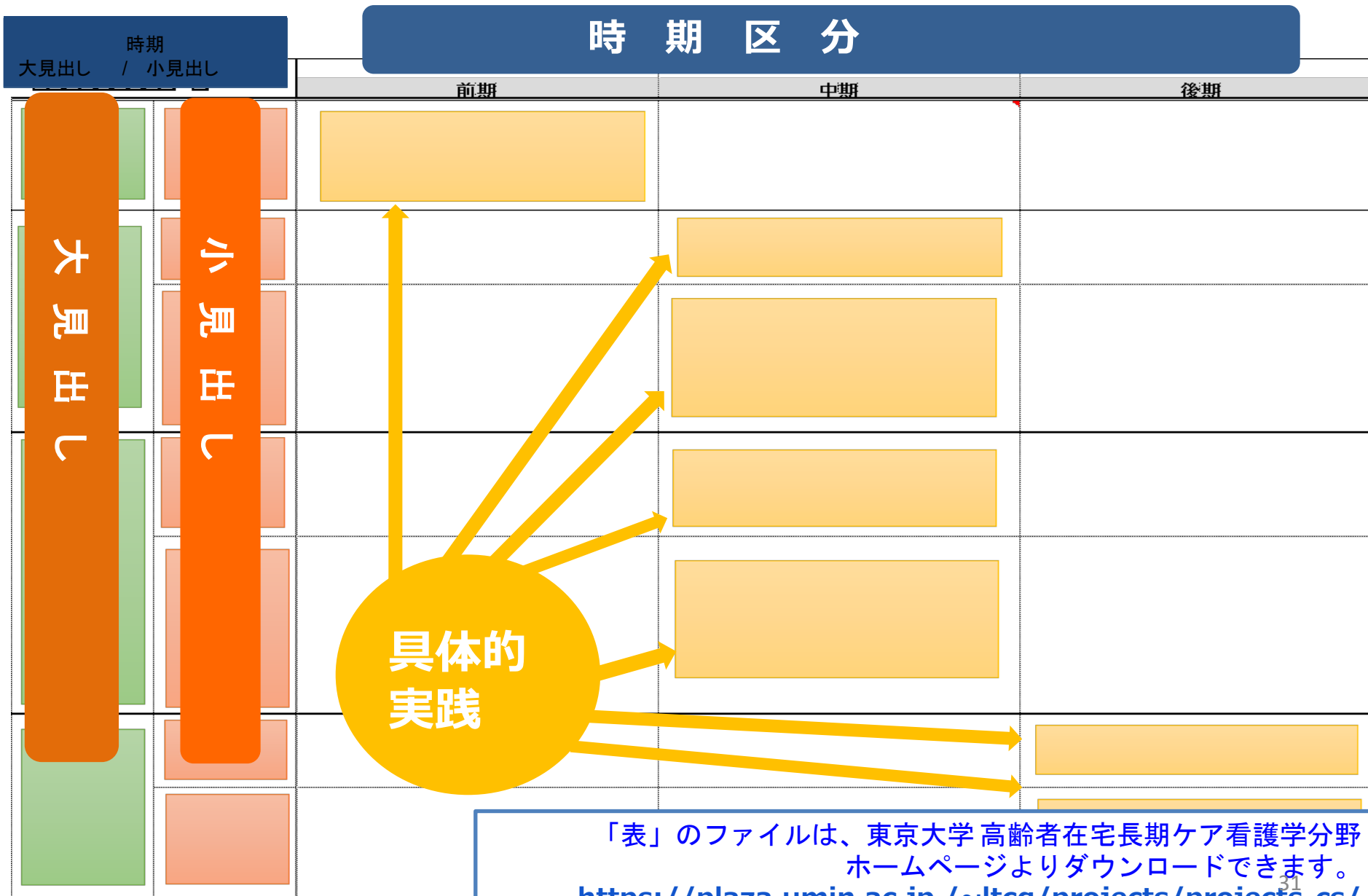


①キャッチコピーをつける
(発見的推論・メタファー)

繰り返す

②看護実践⇔キャッチコピーのつながりを何度も確かめつつ、「タイトル」「大見出し」「小見出し」に修正・整理する
(発見的+演繹的+帰納的推論)。

表を使ったケアプロセスの構造化



大見出し・小見出し

「この実践は・・・についての実践だよね。」

「この実践の意図は・・・だよね」

>>> 「大見出し」に洗練させていく。

「これって実践する上でのコツだよね」

「後輩に教えるときは、このぐらい具体的に説明しないと分からないよね」

>>> 「小見出し」に洗練させていく。

表づくりの全体像：ピッタリ感が大事

メタ
ファー化



1. キャッチコピーで表わそうとした実践の特徴と思われる意味合いについて語りあう

2. キャッチコピーを頼りに
同じ意図や特徴の実践を束ねる

実践A 実践C
実践E

小見出し案①

大見出し
案1

3. キャッチコピーを
洗練させて見出し
を付ける
(キャッチコピーのま
まもあり。大見出し
案も出てくる)

実践B 実践D

小見出し案②

実践G 実践F

小見出し案③

4. 表に小見出し
& 実践を配置し
大見出しを作
成・精練し対応
させる

大見出し	小見出し	前期：	中期：	後期：
大見出し 1	小見出し ①	実践A 実践C	実践E	
	小見出し ③		実践F 実践G	
大見出し 2	小見出し ②		実践B	実践D
	小見出し④		実践H	実践I 実践J

- ・状況と実践の様子がピンとこない
- ・具体的にどうしたらいいか？
- ・教科書の言葉みたい

どちらの大見出し・小見出しが面白い、なるほどと思いますか

- ・状況、やり方をイメージできる
- ・なるほど！と思える
- ・自分も使えそうと思える

	小見出し	大見出し	小見出し
在宅緩和を図る	本人の痛みを管理する	在宅療養の安定を図る	家族の介護体制を尊重する
	妻の心理的負担を考慮する		本人の苦痛症状を軽減する
迷っている家族の意思決定の負担を軽減する	家族の迷いを受け止める	家族間の膠着状態を緩める	療養場所のイメージを広げる
	負担を軽減する		異なる意見をそれぞれ支持する
思いの表出により意思決定を支援	思いの表出を支援する	家族の衝突を機に切り込む	言葉の変化を嗅ぎ取る
	思いを打ち明ける支援をする		アポイントなしの訪問で一気に調整する

大見出し・小見出しを作る時のコツ①

メタファー(隠喩)に託す

大見出し・小見出しの例	この言葉を使った意図
<u>本丸</u> の願い	「本当の」よりも、より強く核心をねらった実践であることを伝えるために用いた表現
<u>土管</u> に入って待つ (公園のお山のトンネルの中で聴く)	土管のトンネルの中では声が響いて割れてしまうから、身を寄せてささやくように小さな声で話す。互いの呼吸も感じながら耳を澄ます。二人だけでそのように話せる‘しん’とした空間。そこへ患者/家族の方から話に来てくれるのを待つような感覚
母の言葉と心に <u>シンクロ</u> する	母の話す特徴を注意深く捉え、母のペースに合わせて‘間’を大切に待ったり、静かに話したりして、言葉も心も合わせていく

大見出し・小見出しを作る時のコツ②

触発性を高めるために、副詞を使う

大見出し・小見出しの例	この言葉を使った意図
在宅看取りの流れの中で、 <u>あえて</u> 立ち止まる	立ち止まって考え直したことが、実は大事な要素であるため、「あえて」を入れて強調した。 ＊意味合い：やりにくいことを押し切ってするさま。

大見出し・小見出しを作る時のコツ③

表現したいことを伝えるために、動詞をよくよく吟味する
＊一般的には使わない動詞を組み合わせることもある

大見出し・小見出しの例	この言葉を使った意図
家族の衝突を機に <u>切り込む</u>	ほんの一瞬のタイミングを逃さずに、家族の意見の相違の調整にぐぐっと入っていた様を伝えたい。 ＊意味合い:深いところまで鋭く入り込む。
言葉の変化を <u>嗅ぎ取る</u>	ともすると気づかないようなちょっとした言葉の変化に気づいたことを、伝えたい。 ＊意味合い:においを知覚する。その場の雰囲気などから感づく。

ポスター作成例

東京大学「意味を見つめる事例研究」
セミナー資料
(模擬事例からのポスター作成例)

1 G訪問看護ステーション、2 H大学、3 I大学

発表要旨

- 終末期に在宅看取りが可能となった事例を分析したところ、「**糸口を探して患者・家族を知る**」**努力**をしなが
「後悔が残らないように患者と家族をつなぐ」
「**安排する時間を多く持つ**るように配慮する」
家族をケアに巻き込むことで**家族の本質的な価値を見出す**
させていた。また、「療養先の変化の可能性を
く」ことで「タイミングを逃さず」に「**安定した退院後の生活**」に向けて段々
患者・家族の希望を実現していた。

対象と方法

データ収集と分析方法

データ収集と分析方法

山本らの「ケアの意味を見つめる事例研究」の方法を用いた（山本, 2011）が支援の経過を振り返って記述したテキストをデータとし、A氏・家族さす支援につなげ、希望に沿った看取りの実現に寄与した看護実践の可視化と、看護師Bと同僚看護師1名、研究者3名を含む5名で検討した。語り合いの手法によって、看護実践のエッセンスを表す「大見出し」「小見出し」と時期からなる表に整理した。表に具体的な実践も書き入れ、その後に語り合い、新たに見えてきた看護実践の意味を考え「大見出し」場での実践を適切に表現できているメンバー全員が納得できるまで討議を重ねた。（倫理：H大学の倫理委員会にて承認）

結果

結果

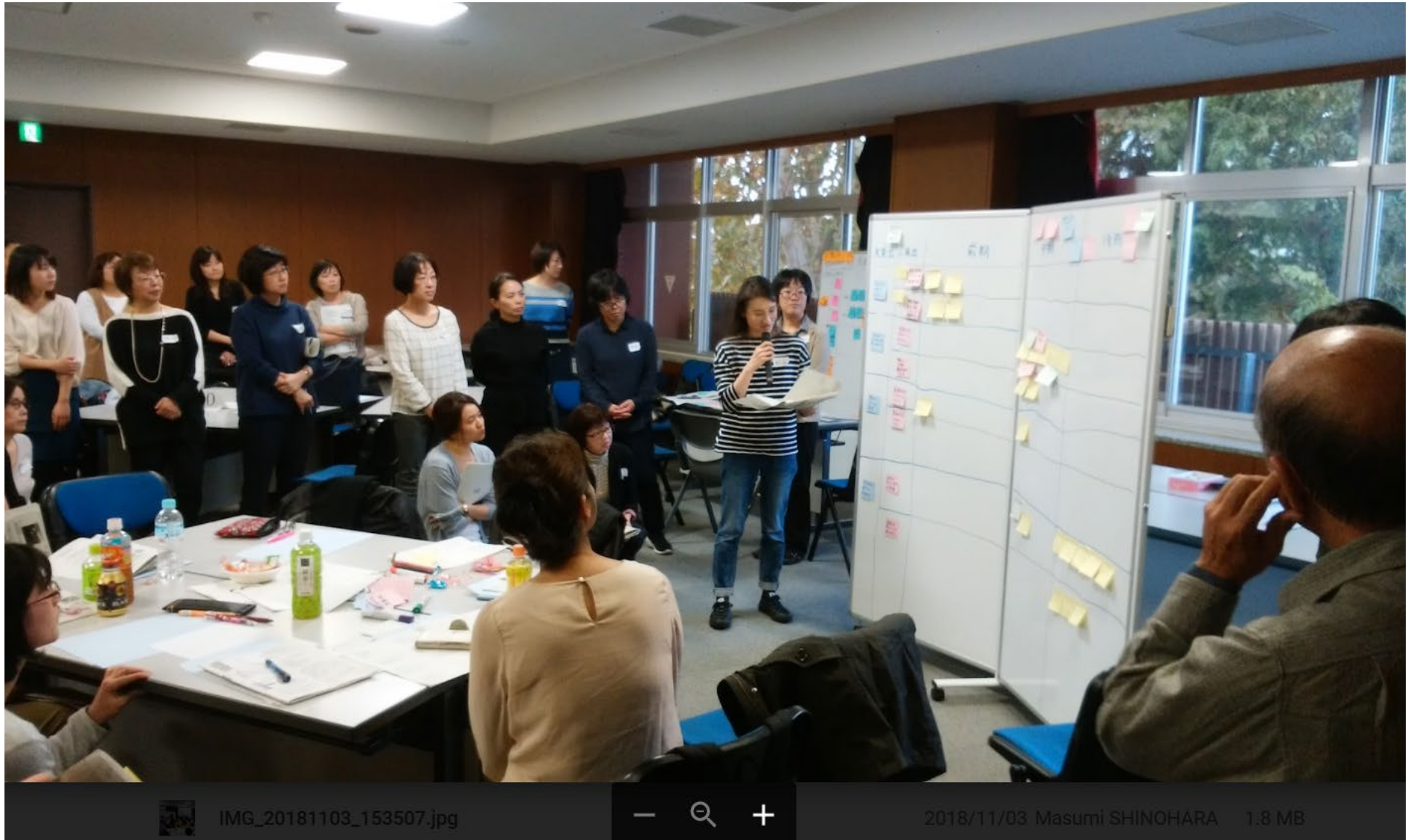
時期区分 大見出し/小見出し	患者・家族を理解し彼らから受ける関係を作った時期	娘と共にケアをしつつ娘の気持ちの変化に注目した時期	速やかに退院を調整し不安なく着地につなげた時期
もう一歩工夫して患者・家族を知る 糸口を探して踏み込む	・父娘の縁を使うため初めに入院前の生活について聞いた。 「カーテンを開けておいて欲しい」との意向を確認した。 ・病院の中から家や施設に対する考えを確認することで、患者が受け入れる時間を持つてもらうことについて考えるようにした。 ・夫が鬱症で寝ている事が多く、患者は口元を固くする外を見ている時間が長い様子から母親の涙に気づきやすくなった。		・患者と医師のやり取りについて、内容理解が出来て確認した。 ・患者の「退院まで覚悟できなければ、解れるなら解りたい」家族の生活を支えたいという想いが伝わってきた。解れることはうれしく、このままの処置を確認した。 ・病院でのケアについて看護師と話し合い確認し、理解と左右合流のやり取りを確認した。
後悔が無いよう患者と家族をつなぐ 療養場の決定までのおき返話をケアに色を込める	・病院の中から家や施設に対する考えを確認することで、患者が受け入れる時間を持つてもらうことについて考えるようにした。 ・医療者間で、患者が「カーテンを開けて過ごす」ことの希望と共有し看護計画にも盛り込み共通の確認とした。 ・父娘の縁を使うため初めに入院前の生活について尋ねた。 ・父娘の退院時にはまだ話さずかけておくことに決め、父と娘の時間を取るように言葉をかけ続けた。 ・次女(娘)と患者が自然にある事を願っていることを伝え、次回はいづれ来るかと声をかけた。	・家族がいるときの食事介助では、ベントアップを90度になっている場所や椅子を入れ移動が難しい状況でないと、行っていることとの断りも説明しながら介助をした。 ・電話ケアでも一緒に話すかとか連絡先も、ケアの方法や大切さを共有しながら進めた。 ・食behavior補助物、マウスウォッシュなどの様々な病からの課題は可能な限り導入するようにした。	
決めのタイミングを迷さない 療養先の变化の可能性を急務におく 患者・家族の気持ちに目配れ、確かめる		・娘と一緒に介護をするように声をかけると患者も頑拒しそうな発言をしていた。 ・自宅に患者を連れて帰ることが想定になる支援を考えた。 ・娘に在宅ケアを全て担う必要がないと繰り返し述べた。 ・娘の「母病に悩まされる姉さんの介護ができていない、何か工夫したいのでできるかも」「選んでいたものが重たい、介助を無理しているのではなかろうか？」というわがままな発言があった。 ・娘と一緒に介護をするように声をかけると患者も頑拒しそうな発言をしていることに分かった。 ・母病を治す娘と一緒に自分の時間の確保と伝えると安心した発言が聞かれたことに分かった。 ・娘に「選んだけれど服を着ないでいいよ？」と娘の口元、お母さんなどとも話そうに話していたところより話し入れを申し立てるようになったと声をかけた。娘は母親の介護がしんどいと感じてしまっていた。 ・もう一つ確認したい。私にもできるから」と言葉を添えて、	・娘の「家に帰るにあたり必要なことを教えてほしい」という声がある。「一緒に帰ろう。私にもできそう」という言葉を聞き、自宅に帰るにあたり必要なことやサポートされる経過を伝えて娘と次の取組を今一度確認した。 ・夫の「娘が眠れない」ということから一緒にやる」という言葉も確認した。 ・自宅に帰るにあたり必要なことやサポートされる経過を伝えて娘と次の取組を今一度確認した。
安心した退院後の生活を守っていく 在宅介護に向けて速やかに行動する “できそう”を保てるよう在宅介護の支援に関わる			・娘の発言を受け、退院後、終末期をキーワードにして退院前、療養所と一緒に自宅までの訪問看護サービスを開始した。 ・訪問看護開始と必要な準備について確認し始めた。 ・退院後は、自宅へ訪問看護サービスに継続して対応を確認し、退院後も療養所の準備のもとに治療の提供をしていく、家族の変化と対応できるように連携して支援が必要となった。 ・退院後2週間後、退院前確認事項の再評価と考慮して視察のサービス再開を確認した。 ・永年訪問看護訪問看護サービスに渡り、適切な対応を確認した。

考察

- 既に療養場所が決まっても、その変更の可能性を看護師が念頭において家族をケアに巻き込み、同時に、一人ですべて抱え込む必要はないと繰り返し伝えることで、家族がケアに安心して参加し自信を持てたこと
- それに先んじて、看護師が患者・家族を深く理解できるよう工夫をする傍ら、家族の間をつなぐように配慮して関わることによって、家族が本当は自分はどうしたいかを考えられる機会と場が作られたこと

この2つにより、家族の潜在していた希望が自覚され、当初はなかった在宅看取りの決意に至ったものと推察される

38



IMG_20181103_153507.jpg



2018/11/03 Masumi SHINOHARA 1.8 MB

事例研究を進めていくためのステップとしかけ

- ・学会発表
- ・論文発表

意識化/言語化

しかけ

「ワークシート」

「問われ語り」

メタファー化

しかけ

「キャッチコピー」

「大・小見出し」

「創発的語り合い」

「表づくり」

再ナラティブ化

しかけ

「一人称の記述」

「気持ちも伝える」

「追体験」

実践知（＝「意味」「キモ」「コツ」）を言葉にする
看護の可視化・共有可能性の獲得

結果の書き方ポイント 1

再ナラ タイプ化

その場の情景・空気感が伝わるように、情景の描写をする

3) 家族の時間を存分に味わってもらう ←大見出し

(2) いつも通りでいる ←小見出し

ある日、看護師が訪問すると、部屋に入った瞬間に異様な熱気を感じた。外は初冬で寒く、8畳の和室には暖房がついており、A氏の浅く速い息使いが聞こえ、ベッドを取り囲むように家族7人が固唾を吞んでA氏を見守っていた。看護師がA氏の様子を確認すると、A氏の髪は乱れ、眉間にしわを寄せ、酸素のカヌラが鼻の横にかかっていた。そしてA氏は看護師を見ながら「苦しい、助けて、死んじゃう」と、看護師に訴えてきた。

下線太字部分を、論文推敲の段階で加筆していった。

看取り前の緊迫した様子がわかりやすくなり、看取り前の「(2) いつも通りでいる」という小見出しの実践が理解しやすくなる

(佐藤ら、2019)

© 2025 Yamamoto-Mitani N

結果の書き方ポイント2

再ナラ タイプ化

事例研究の記述から追体験するには、ストーリーを持たせ看護師の感情を記述する

- ストーリー性を有していると、理解が進みやすく、記憶に留まりやすい (Bruner, 2007)
ストーリーとは、出来事と出来事の間になどどのようなつながりがあるかを示す
- 看護では、
利用者（患者）・家族の状態→看護師の考え・判断→看護実践→利用者（患者）・家族の反応
- 感情とセツトの方が読者の記憶にとどまりやすい
→看護師の感情や迷いも合わせて書くことで、リアルに近い形を表現しようとしている

お母様と話してみますね」と受けてはみたが、看護師自身も頑なな妻の態度にどのように伝えて良いか妙案は浮かばず、自信を持てずにいた。しかし、娘と喧嘩した妻の心理状態を考えた時、妻は介護疲労の状況にあった。本当は娘の助けを待っているのに意地を張っているのではないかと思えた。そのため、

看護職が「自信が持てない」とは論文に載せて良いのか？

語られた感情であれば、これも一緒に載せた方が読者は追体験しやすい。

これまでに発表された論文

- 1) 安塚則子, 森元陽子, 和智理恵他: [訪問看護職が実践する家族介護者への代理意思決定支援－胃瘻造設の決定を支援した訪問看護の事例](#). 家族看護学研究, 20 (2): 68-78, 2015
- 2) 岩戸さゆき, 池田真理, 吉田滋子他: [医療的ケアが必要になった重症心身障害児の在宅復帰を可能にした看護－母の本当の願いを引き出し実現した事例から](#). 家族看護学研究, 23 (1): 52-63, 2017
- 3) 大竹泰子, 野口麻衣子, 野原良江他: [最後の療養場所に関する意向の相違を抱えた家族に対する訪問看護師による意思決定支援](#). 家族看護学研究, 23 (1): 64-74, 2017
- 4) 佐藤美雪, 野口麻衣子, 阿部智子他: [家族主導で在宅看取りの意思決定が進む中で訪問看護師が行った看取りまでの看護実践－慢性呼吸不全高齢者の在宅看取り事例を通して](#). 日本在宅看護学会誌, 7 (1): 225-234, 2018
- 5) 花田美里, 赤井畑明里, 長尾祥子他: [安静指示のある脊椎疾患患者に提供された「あうんの呼吸」による看護](#). 看護研究, 52 (4): 254-263, 2019
- 6) 土本千春, 野尻清香, 柄澤清美他: [自分を伝えないAYA世代終末期患者の残された「今」を支えた看護－語りあえない家族をゆさぶる－](#). 家族看護学研究, 26 (2): 188-200, 2021
- 7) 野尻清香, 柄澤清美, 柳原清子他: [緩和ケア病棟における終末期の自覚がない患者の退院支援－積極的対話で真意を把握し在宅へのレールを敷く－](#). 日本がん看護学会誌, 35: 353-359, 2021.
- 8) 米村法子, 野口麻衣子, 二見朝子他: [入院を機に難治褥瘡を有する療養者と家族の在宅看取りを実現した看護実践：事例研究](#). 家族看護学研究, 27(2): 128-141, 2022.
- 9) 田嶋ひろみ*, 柄澤清美*, 雨宮有子, 吉田滋子, 山田妙子: [重症心不全患者と家族の穏やかな自宅療養継続を支える訪問看護師の実践－「ケアの意味を見つめる事例研究」による分析－](#). 家族看護学研究, 29: 37-50, 2023.
* 共同第一著者
- 10) 富永知恵子, 野尻清香, 柳原清子, 今井美佳: [痛みをもちながらがん治療を続ける患者の治療中断の選択に伴走する－核心がつかめない患者とのやわらかな対話から－](#). 日本がん看護学会誌, 38: 72-78, 2024
- 11) 平山美智子, 吉田滋子, 齋藤凡: [抑うつと認知機能低下があり救急搬送が頻繁だった独居高齢者の穏やかな在宅生活を可能にした訪問看護実践－「ケアの意味を見つめる事例研究」を用いて－](#). 日本在宅看護学会誌, 14(1): 24-33, 2025

これから何がやりたいか

CMCから開く看護学の知の挑戦

- ・ 実証主義的な知の作法に偏りすぎた看護学研究
- ・ 解釈主義的な知の作法の実装普及にとりくみたい

- ・ オットー・F・ボルノウ（1903-1991）

自然科学と区別されたものとして精神科学を基礎づけ、学としての正当性を確保することが問題（ダンナー、2021）

19世紀の後半には、近代人の全世界観は、もっぱら実証科学によって徹底的に規定され、また実証科学のもたらすく繁栄>によって徹底的に幻惑されたが、その徹底性とは、真の人間性にとって決定的な意味を持つ問題から無関心になり眼をそらす、ということの意味していた。

参考図書・ワークショップのご案内

ケアの意味を見つめる 事例研究

看護実践の知を探求する研究方法論

CMC Case Study to Focus on the Meaning of Care

編集
山本則子 柄澤清美

編集協力
「ケアの意味を見つめる事例研究」検討グループ

すべてのケア実践には、
意味がある。

日々営まれるケア実践。
そこには、無数の意味と実践知が詰まっています。
ケアの意味を見つめ、共有し、伝播させ、看護学の知をつくる——

事例研究の新たな方法論の提案

医学書院

📖 医学書院から

9月27・28日 📅

© 2025 Yamamoto-Mitani N

令和7年度

ケアの意味を見つめる 事例研究 セミナー

ケアの意味を見つめる事例研究（CMC）は、
ケアの実践知を共有可能な知とする方法です。皆さんのケア実践を目に見える形にして、
先輩・同僚・後輩、多職種、そして次の世代へと伝えていきませんか？

2025年9月27日(土)
10:00~17:30

1. 事例研究（CMC）の概要

2. 模擬事例を用いた演習

①実践にキャッチコピーをつける
②実践内容を整理する

2025年9月28日（日）
9:00~12:30

※午後（13:30~15:00）はご希望の方がいる場合、
フリー参加で以下を予定しています。

①事例の問われ語り経験
②CMCを用いた事例研究の相談会

1. 模擬事例を用いた演習および講義

①学会発表・論文執筆の方法
②研究倫理について

2. 事例研究発表会

これまで事例研究に取り組まれた方々の研究成果
および、経験談をご発表いただきます。

■対象 ケアに携わる医療職、教育・研究職、
事例研究に興味のある方

■講師 山本則子、他
（東京大学大学院医学系研究科
/ 高齢者在宅長期ケア看護学分野）

■定員 30名（先着順）

■費用 5,000円（2日間）
※1日だけの参加でも同額とさせていただきます

■場所 東京大学本郷キャンパス医学部5号館
（最寄駅「本郷三丁目」都営大江戸線/東京メトロ丸の内線）

主催：東京大学大学院医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野
共催：東京大学大学院医学系研究科附属
グローバルナースリサーチセンター

【締め切り】2025年9月12日（金）12時
【問い合わせ】Mail：CMC2024office@gmail.com（事例研究セミナー事務局）
【注意事項】お申し込みの方は必ずご確認ください
※ ご受講は申込者ご本人のみとなります。
※ セミナーの録音・録画および配布予定の資料の複写・転載・配布・再販等は固くお断りいたします。
※ 個人情報の取り扱いについて：いただいた個人情報は本セミナーの運営、アンケート等のやりとり、
運営の改善を目的としたやりとりのみ活用いたします。
※ お申し込み後のキャンセルは受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。
※ 主催者による中止・延期等の場合は、お支払いいただいた参加費を返金いたします。
※ 領収書はPeatixのサイトから印刷するもの（領収シート）となります。

-お申込用QRコード-
Peatixのサイトに飛びます

CMCについて学びたい方に

- ・ ウェブサイト : <https://plaza.umin.ac.jp/~ltcq/projects/projects-cs/>
- ・ 読書会（現在解釈学hermeneuticsの解説書を読んでいます）
（毎週水曜19-20時 オンライン）
- ・ 事例検討会（第3木曜19-21時 オンライン）
- ・ CMCワークショップ（例年秋に東大本郷キャンパスにて。今年
はすでに満員御礼です。。。）
- ・ ご関心のある方はどうぞご一報ください